

倉敷芸術科学大学 職員人材育成ビジョン

倉敷芸術科学大学では、10年後のあるべき姿を示すために2017年4月に「ビジョン」を策定した。その中で、「教育」、「研究・創作」、「社会連携」、「内部質保証」、「経営基盤の安定化」の5つの事業の柱について将来像を描き、中期計画（アクションプラン）を設定した。しかし、これから先も大学を取り巻く環境は、間違いなく常に変化し続ける。

このプランを着実に遂行し、時代の変化に即応するには、教員も教育および研究・創作のみに専念するのではなく、職員として直接、間接に大学運営にかかわらなければならない。また、事務職員は、所属部署の範囲を超えた戦略的な発想・行動が必要になる。これらすべての職員が一体となって本学の将来を見据え、即ち、「ビジョン」を意識しながら、大学運営に取り組むことが重要である。

本学職員一人ひとりが、「目指すべき職員像」を目標に研鑽に努め、学生はもちろんのこと、大学を取り巻く様々なステークホルダーのために、誇りと使命感を持って、日々の業務遂行に取り組んでいくことを目標とし、「倉敷芸術科学大学職員人材育成ビジョン」を制定する。

このビジョンを基盤とし、職員を対象としてSD活動を計画的に実行することにより、人材を育てる環境づくりを推進し、目指すべき職員像に掲げた職員の育成に努める。

※ここに記す職員とは、「学校法人加計学園就業規則」に定める「学園に雇用されている常勤のすべての者（ただし、常勤の嘱託職員は除く）」である。